



— 自然免疫と健康維持 —

LSINは、特定非営利活動法人 環瀬戸内自然免疫ネットワーク(Nonprofit Organization Linking Setouchi Innate immune Network)の略であり、平成13年に設立された自然免疫賦活技術研究会を母体として、平成18年3月22日に設立されたNPO法人です。詳しくは <http://www.lsin.org> をご覧ください!!

— 第32回自然免疫賦活技術研究会開催される —



平成22年3月25日(木)、サンメッセ香川(香川県高松市)で第32回自然免疫賦活技術研究会が開催され、新規参加の4機関を含め、計58名(計37機関)が参加しました。

今回の研究会では、四国経済産業局柴田様から地域経済活性化関連予算の概要説明や、産業技術総合研究所細川様から、地域産品の機能性成分分析マニュアルの紹介等があり、計4題のプレゼンテーションが行われました。その中で、STEP伊藤様からは、3月認可・設立された「自然免疫制御技術研究組合」について概要説明がありました。

また、特別講演では、高知大学受田先生より「農水産物付加価値創出による地域活性化」と題して、地方特有の問題点を検証した上で、問題克服と地域活性化の事例を講演いただき、今回の研究会は、予防医学システム構築の重要性について学ぶ会となりました。



本号のニュース

- ・第32回自然免疫賦活技術研究会の開催
- ・かがわ糖質バイオフィォラム合同シンポジウムの開催
- ・自然免疫応用技研(株) 2009四国産業技術大賞産業振興貢献賞を受賞
- ・自然免疫賦活技術研究会 連携医療機関紹介

— 目次 —

- ・第32回自然免疫賦活技術研究会開催される.....1
- ・小麦発酵抽出物配合飲料によるインフルエンザ発症予防への影響.....1
- ・かがわ糖質バイオフィォラム合同シンポジウムの開催.....2
- ・自然免疫応用技研(株)
2009四国産業技術大賞産業振興貢献賞を受賞.....3
- ・連携医療機関紹介
社会医療法人 喜悦会 那珂川病院.....3
- ・ひげ博士のホットレポート—最新免疫学講座—.....4
- ・LSIN会員募集.....4
- ・編集後記.....4

小麦発酵抽出物配合飲料による インフルエンザ発症予防への影響

小麦発酵抽出物配合飲料の日常摂取による、インフルエンザ発症予防への影響について調査を行いました(調査期間:平成21年11月~平成22年2月)。小麦発酵抽出物配合飲料を摂取している100名(飲用群)を対象とし、インフルエンザを発症した人の数についてアンケート調査を行いました。統計解析にはオッズ比を用いました。

飲用群と飲用していない群(一般群)の比較を表1にまとめました。その結果、一般群ではオッズが0.09であるのに対し、飲用群では0.03となり、飲用群は、一般群よりもインフルエンザの発症リスクが低い傾向がみられました。これまでの研究より、小麦発酵抽出物は自然免疫を活性化することがわかっていますが、本調査より、

表1 飲用群と一般群のオッズ比

	患者数	健常者数	オッズ	オッズ比
飲用群	3	97	0.03	0.3
一般群	10,750,000	116,800,000	0.09	

一般群は、平成21年の国立感染症研究データより引用

オッズ比<1の場合、飲用群のほうが一般群より疾患に罹りにくい事を意味する。

小麦発酵抽出物が自然免疫の活性化を通して、インフルエンザの発症を予防する可能性が示唆されました。

かがわ糖質バイオフォーラム合同シンポジウムの開催

合同シンポジウムが平成22年3月24日(水)10:00から16:30まで、ホテルニューフロンティア(高松市)で開催されました。当日は雨天にもかかわらず、多数ご参加を頂きました。

かがわ糖質バイオフォーラム傘下の2つの研究会、「複合糖質研究会」と「自然免疫賦活技術研究会」主催の初めての合同シンポジウムです。

プログラムは二部構成で、第一部の「複合糖質研究会」では、まず、都市エリア事業産学官連携促進事業(発展型)事業説明に続き、研究テーマ「地域に根付く糖質素材の免疫調節作用を利用した食品等の開発」のサブテーマ4課題の成果発表が行われました。



複合糖質研究会特別講演の加藤昭夫先生
(山口大学・名誉教授)

複合糖質研究会特別講演
「スギ花粉症の経口免疫寛容剤開発
—スギ花粉アレルギーエピトープの
マスクングと免疫寛容誘導(調節型
T細胞誘導)に効果的な多糖の検索—」

自然免疫賦活技術研究会基調講演の
徳増有治様(四国経済産業局・局長)

自然免疫賦活技術研究会基調講演
「健幸社会の構築に向けて」



自然免疫賦活技術研究会特別講演の
八山幸司様(経済産業省大臣官房・企画官)

自然免疫賦活技術研究会特別講演
「バイオイノベーションによる成長戦略」



当NPO法人LSIN活動の特長の一つであります効果実証試験について、「NPO法人LSINにおける効果実証試験の取組みについて」と題して、連携協定書を締結しております医療機関財団法人三宅医学研究所附属セントラルパーククリニック院長中本尊氏から、LSINに設置しております倫理委員会や安全性・効果実証試験の実施内容等について説明されました。他の医療機関として、社会医療法人喜悦会那珂川病院(福岡県福岡市)とも連携協定書を締結しております。

一部、二部とも熱心な質疑応答がなされ、合同シンポジウムを成功裡に終わることができました。



開会の挨拶を行う複合糖質研究会会長・自然免疫賦活技術研究会会長 杉源一郎氏

特別講演「スギ花粉症の経口免疫寛容剤開発—スギ花粉アレルギーエピトープのマスクングと免疫寛容誘導(調節性T細胞誘導)に効果的な多糖の検索—」と題して、山口大学名誉教授加藤昭夫先生から、詳しい説明がありました。

午後は、第二部の「自然免疫賦活技術研究会」の紹介から始まり、基調講演「健幸社会の構築に向けて」と題して、四国経済産業局・局長 徳増有治様より「健幸社会について」と題して、将来来るべき、人間と社会の在り方について講演を頂きました。演題に「健幸」とありますが、この背景には、健康とは何かを提示しなすこと、即ち新たな健康観を提案する意図があるとのこと説明がありました。具体的には、健幸(HP)³の提案であります(HP)³= Health, Happiness, Humanity, Prevention, Prediction, Participation.)。今後、社会が共有すべき健康観について、示唆に富むとともに極めて説得力のあるお話が伺えました。

特別講演「バイオイノベーションによる成長戦略」と題して、経済産業省大臣官房企画官 八山幸司氏から、ライフイノベーションの必要性、医薬品分野のイノベーションの阻害要因、政府のライフイノベーションの取り組みについて、詳細な説明を頂きました。医薬品や健康関連産業関係者に留まらず、医療・健康に関心をもつ皆さんにとっても、これからの健康インフラを確立する上でプラットフォームともなる内容を含むお話が伺えました。

教育講演として、「マクロファージ研究の新展開」と題して、自然免疫応用技術(株)取締役稲川裕之氏から、わかりやすく解説されました。



都市エリア事業での成果を発表されている仲山賢一先生
(産業技術総合研究所四国センター
生体機能評価チーム・チームリーダー)



都市エリア事業によって生まれた成果物の展示

自然免疫応用技研(株)2009四国産業技術大賞産業振興貢献賞を受賞

財団法人四国産業・技術振興センター(STEP)では、企業等の士気高揚を図り、四国地域の産業技術の高度化に資することを目的として、四国経済産業局、産業技術総合研究所四国センター等の関係機関と協議の上、四国地域における鉱工業等の産業技術の発展に顕著な貢献をした企業、団体を表彰してきました(平成21年度は14回目)。

産業振興貢献賞は、技術開発成果が産業振興や地域活性化に顕著な貢献があったものとして、四国経済産業局長が表彰することになっています。

2009四国産業技術大賞産業振興貢献賞を受賞された自然免疫応用技研(株)は、これまで注目されなかったグラム陰性菌による小麦発酵で生じる糖脂質が、生物が本来持っている免疫力を高めることに注目し、世界で初めて機能性食品素材として商品化されました。

既にこの素材を利用した人や家畜、魚類などの免疫力を高める機能性食品や化粧品、飼料として販売されており、この糖脂質分野の開拓は、新たな市場を作り出す



四国経済産業局より表彰を受ける河内社長と吉田主任研究員

長産業として高く評価されました。

受賞テーマ：糖脂質機能の再発見一経口で免疫を活性化
する画期的機能性素材の開発一

連携医療機関紹介



(沿革)

昭和34年4月に井上繁孝により医療法人喜悦会筑紫診療所として福岡県筑紫郡那珂川町に開設されました。昭和36年に医療法人喜悦会那珂川医院と改称し、昭和39年には現在地(福岡市南区向新町)に那珂川病院(48床)を開院しました。昭和54年には現在と同じ162床まで増床し、昭和62年1月に2代目院長として木村専太郎が就任、平成13年4月に下川敏弘が院長に就任し現在に至っています。

(理念)

「思いやりそして努力、奉仕そしてよろこび」を病院理念として掲げています。

(現在の概要と今後の展望)

病床は162床であり、その内訳は、一般病棟96床(うち亜急性期8床)、緩和ケア病棟20床、回復期リハビリテーション病棟46床となっています。救急・急性期医療から



生活習慣病などの慢性期医療、さらにリハビリ、在宅医療、緩和ケアまで含めたトータルな医療・看護をこの地に提供すべく、周囲の医療機関、介護・福祉施設と緊密な連携を取りながら医療活動を行って



井上理事長と上田理事長による連携協定調印式

平成20年12月に日本医療機能評価機構認定(ver.5)を更新し、平成21年4月よりDPC対象病院となり、同年6月には入院料基準7対1の看護体制を整えました。そして平成22年4月には社会医療法人として認可を受けました。

さらに本年度は電子カルテ導入、増改築工事の開始を予定しており、今以上に公益性の高い医療機関として社会貢献できるようにソフトとハード両面の充実・発展を進めていきます。

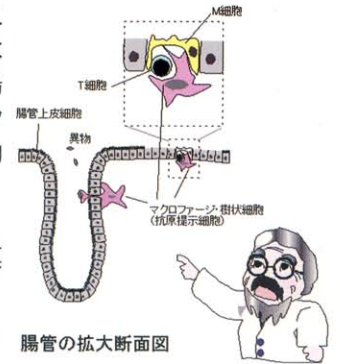
(NPO-LSINとの連携)

当医療法人は、平成19年10月から特定非営利活動法人環瀬戸内自然免疫ネットワーク(NPO-LSIN)との連携を行っており、平成21年4月24日には正式に連携協定の締結を行いました。さらに自然免疫制御技術研究組合への加入も予定しており、今後機能性素材を含有する食品・化粧品の効果実証試験の実施などの連携事業に積極的に取り組んでいく予定です。

ちょっと一息：ひげ博士のホットレポートー最新免疫学講座ー

皆さん。体の中で最大の免疫器官はどこか知っておるかな？実は、腸と言って良い。例えば、リンパ球の60%以上が腸に住んでおり、マクロファージは腸に最も多い。なにしろ、腸は異物の宝庫じゃ。食べ物も異物だが、人間の細胞数60兆個より多い100兆個といわれる腸内細菌がいる。このような環境で異物を制御する免疫が発達しておるのじゃ。それに、マクロファージや樹状細胞と呼ばれるリンパ球に情報を与えている抗原提示細胞は腸から異物情報を得ることに長けておる。

これらの異物に対する免疫細胞の情報入手方法が大きく三通りある。一つ目、腸の粘膜細胞(上皮細胞)が食物由来のタンパク質を取り込んで、抗原提示細胞に受け渡す。二つ目、M細胞という異物を取り込むことに特別に進化した腸の細胞が、テントみたいな空洞を持ち、そこにマクロファージやリンパ球を抱えておる。腸で分泌される免疫グロブリンIgAと結合した抗原や、腸管では吸収されないような大きな物質も取り込んで、マクロファージ等に抗原を送っている。三つ目、抗原提示細胞が、果敢に腸の粘膜細胞の間から手を伸ばして、腸管内の異物を積極的に取り込んでおる。体の外に手をだすなぞ行儀が悪いが、情報を得るための姿勢は立派なものじゃ。



これらは異物の情報の入り口であるが、同時に、免疫賦活物質の入り口でもある。ある種の細菌(チフス菌、リステリア菌など)はM細胞を利用して体内に潜り込み感染症を引き起こすので、要注意じゃのう。

LSIN会員募集

LSINでは会員を募集しています。LSINの活動に賛同していただける方であれば、どなたでも入会できます。

●入会金・年会費一覧

入会を希望される方は、以下の入会手続きをご参考ください。

(1)ホームページからの入会手続き

下記のURLにアクセスし、ホームページ内の「入会のご案内」→「入会申込フォーム」に必要事項を明記の上、お申込ください。

LSIN URL : <http://www.lsin.org>

(2)郵送またはFAXによる入会手続き

「入会申込書」をLSIN事務局まで郵送あるいはFAXでご請求下さい。

「入会申込書」に必要事項を明記の上、事務局まで郵送あるいはFAXにて送付ください。

「入会申込書」の下部に記載している振込先へ、入会金・年会費をお振込ください。

事務局から「入会手続き完了」の連絡をお送りします。

※「入会手続き完了」のご連絡は、事務局にて入会申込書と入金照合し、入会手続きが完了した時点でお送りします。

入会申込書の送付と入会金・年会費のお振込完了後、2週間を過ぎても連絡がない場合は、お手数ですが事務局までお問い合わせください。

入会金			年会費		
正会員	個人会員	10,000円	正会員	個人会員	10,000円
	企業会員	30,000円		企業会員	50,000円
賛助会員	個人会員	10,000円	賛助会員	個人会員	10,000円
	企業会員	30,000円		企業会員	50,000円
モニター会員	入会金なし		モニター会員	年会費なし	

〒761-0301 香川県高松市林町2217-16
FROM香川バイオ研究室

特定非営利活動法人 環瀬戸内自然免疫ネットワーク

TEL:088-652-6026 FAX:087-887-3848
(MOBILE:090-2783-5885)

E-mail: npolsinlsin@lsin.org URL: <http://www.lsin.org>

編集後記

LSIN会員の皆様、ニュースレターNo.11をお届けします。

会員の皆様には、LSINが「健康維持は自然免疫の活性化から」をコンセプトとし、(1)自然免疫の役割や重要性についての情報発信、(2)自然免疫を活性化する技術の普及を目的として活動していることは、既にご承知かと存じます。

(2)については、自然免疫賦活技術研究会を開催することで目的を果たしております。しかし(1)については、LSINホームページ、LSINブログ、講演会活動を通して行っておりますが、以前より公開シンポジウムの形でより多くの方々に情報

発信ができないか協議しておりました。それが、今回「かがわ糖質バイオフォーラム合同シンポジウム」という形で実現することができました。詳細については2頁をご覧ください。

今後もより多くの健康に関心を持っている方々を対象に、講演会やシンポジウムを開催していく予定ですので、会員の皆様もお住まいの近くで開催予定の際はご参加ください。

最後になりますが、お忙しい中、原稿をご執筆いただいた方々、編集委員の皆様にご心より厚くお礼申し上げます。

編集長 中本 尊

LSIN事務局

LSINニュースレター編集委員

編集長 中本 尊 編集員 稲川裕之 中本優子 谷口芳枝

平成22年6月25日発行